

板紙・段ボール新聞

日刊板紙段ボール新聞社

東京都文京区湯島4-6-11 A-509

TEL 03-5689-0121 FAX 03-5689-0120

http://www.itadan.com

Email: info@itadan.com

購読料 年間 33,000 円(価格は税込)

パッケージには、
使命がある。

暮らしをつつみ、明日をひらく。 **ALLT**

中国・信川機械 平盤打抜機を導入

へキサ・ジャパン 販売強化 選択肢提供、見学可能

旭紙業 横浜工場

有力段メーカーの旭紙業(株) (小林裕明社長、東京都港区) は、1月に横浜工場(横浜市磯子区)で、自動平盤打抜機「CENTURY MWZ1450NII」(中国・山東信川機械有限責任公司)以下、信川機械)を導入した。同工場は伝統的に抜き加工の比率が高く、近年仕事量も増加傾向にあることから増設した。複数の国内メーカー機が稼働する中、中国屈指の信川機械製を選択した理由を小林社長は、「グループに中国法人があり、草創期から着実かつ急激に成長・拡大してきた姿を見ており、安心して採用した」と述べると同時に、「加工設備が高騰する中、中小段メーカー、ボックスメーカーにとって、ひとつの選択肢となれば」と強調し、希望者の見学に対応、グループ会社のへキサ・ジャパン(株)による販売もさらに強化する意向だ。



「CENTURY MWZ1450NII」の前に、左から吉村有二工場長、金崎次長、東北旭紙業(株)伊藤彰ハニカム課課長

「CENTURY MWZ1450NII」を導入した横浜工場は、複数のA式ラインはもとより、抜き・貼り加工ラインも多く設備している国内屈指の都市型工場。抜き工程は印刷機連結を含めて3台を設備、今回さらに1ライン増設した。信川機械は設立18年、同国の段ボール産業の急成長と軌を一にするように、同社も大きく成長、開発力を武器に、超大型から小型、自動高速から手差し給紙まで多くの品種をラインアップ。中国はもとより欧米にも輸出し、世界70カ国で7千台近い販売実績を持つ同国

「CENTURY MWZ1450NII」の主な仕様は、最大打抜能力が毎時4200枚。最大シートサイズ1480×1080mm、同最小600×500mm。最大打抜サイズ1450×1050mm。対応シート厚さは1.0～8.5mm。タッチパネルも日本語仕様で、同社では従来機のオペレーターが兼務している。抜き工程全般を担当する金崎孝浩製造部次長は、「(操作してみて)平抜きの入門機と捉えている。稼働に至る準備も極めて限定的で、経験の少ない人間でも操作できる。現に抜き加工の経験がない他部門の人間が手伝いに来て、問題なく動

かしている」と話す。今回の納入にはもうひとつ大きな狙いがある。「機械コストが年々上昇する中、思っような設備投資が叶わない中小段メーカー、ボックスメーカーが増えてきている。やはり独立系段メーカーとして、この現状を少しでも打破したい」(小林社長、以下同氏コメント)との思いだ。「安かろう悪かろうではないからこそ、日本製の納入が難しい会社にとっての選択肢になる。また、こちらのリンクエストに応えた仕様としてくれる柔軟性も高い」とする。同社では随時、希望者の実機見学を受け入れる。

合わせて、各種加工機の輸入も手掛けるへキサ・ジャパンは信川機械製打抜機の販売を強化する。これまで6社7台の販売実績を持つ。遡ると、初めての納入が13年前、

働く環境の向上に注力



横浜工場では暑さ対策のため、大型シーリングファン(オーシャントテクノロジ(株))を導入し「写真」。リニア駆動で省エネ・省電力ながら高機能、満遍なく涼風が行きわたる。貼合工程4台、加工工

程5台の計9台稼働する。3月には「健康経営優良法人2026」に認定、一昨年12月には本社のある港区から「港区ワーク・ライフ・バランス推進企業認定」を受けると、健康で働きやすい環境整備に注力している。

ボックスメーカーに納入したが、これまでマシンは大きなトラブルはなく、部品交換した程度。現在も「全く問題なく、故障らしい故障なく稼働している点も安心材料になるのでは」とする。他方、日本ではサービステクニカルな専門技術者を招聘する計画という。同機の見学含めて問い合わせはへキサ・ジャパンTEL03-3443-7591まで。

ればと考えるのは自然なこと。当社も段ボール会社だからこそ、十二分に理解できることとして、東日本、西日本地区、双方にメンテナンスサービスを担う会社を確保することも、今後中国から専門技術者を招聘する計画という。同機の見学含めて問い合わせはへキサ・ジャパンTEL03-3443-7591まで。